



内館 牧子 講演会

プロフィール

現職 脚本家
ノースアジア大学 教育諮問委員
ノースアジア大学 総合研究センター 客員教授

履歴 武蔵野美術大学 卒業
東北大学大学院 文学研究科修了
NHK大河ドラマ「毛利元就」・NHK連続テレビ小説「ひらり」・TBSドラマスペシャル「塙の中の中学校」
他多数のテレビドラマの脚本を手掛ける。

撮影/富本真之

「小さな神たちの祭り-震災から10年が過ぎて (東北放送制作テレビドラマより)」

開講日時 ▶ 2月26日(土) 午後1時00分～2時30分(開場 午後12時30分)
会場 ▶ ノースアジア大学 40周年記念館 2階 271教場

講演内容

東日本大震災から、2022年3月で11年目に入ります。

私はこの間ずっと、「亡くなった人たちはどこかで楽しく生きているんじゃないかしら」と、心のどこかで思っていました。科学的な理由なんてありません。ただ、岩手や宮城の人たちから、よく不思議な話を聞きました。

亡くなった子供のオモチャが夜中に動いたとか、タクシードライバーが亡くなった人を乗せたとか。それを聞いた人たちが、「やっぱりどこかで生きている」と安心したという話も耳にしました。

東北放送のテレビ開局60周年ドラマとして、私はそんな話を書きました。大切な人を亡くした方々から「元気が出た!」と言われ、文化庁の芸術祭賞や海外での賞も頂きました。国を問わず、誰もが「死者は目の前からいなくなったけど、どこかで生きている」と思っているのだと我が意を得ました。

ドラマのタイトルの意味は、講演の中で気づかれると思います。